

沖縄県における平成 28 年の毒蛇咬症

沖縄県衛生環境研究所
衛生生物班
盛根信也・寺田考紀・久高 潤

要旨：沖縄県における平成 28 年（2016 年）の毒蛇咬症患者はハブ咬症 37 件、ヒメハブ咬症 5 件、サキシマハブ咬症 13 件、タイワンハブ咬症 1 件の計 56 件となり、前年より 11 件減少した。今年はガラスヒバアやウミヘビ類等のハブ類以外の毒蛇による咬症事故は確認されず、ハブ咬症による死亡者の報告もなかった。受傷場所は多い順に、屋内・屋敷内 20 件(36%)、畑 13 件(23%)、道路 9 件(16%)、山林・草地 8 件(14%)で、それ以外の合計が 5 件(9%)であった。屋内・屋敷内・畑など、県民が日常生活を営んでいる場所での事故が多い。咬症件数は 2000 年以前と比較すると減少傾向にあるが、例年同様に畑や屋敷、道路等の人の生活圏における咬症の割合が高く、日頃の対策が重要である。

I はじめに

沖縄県では、毎年ハブ類などの毒ヘビによる咬症被害が発生し、本土復帰前には年に 400 件以上に上り、死亡例も数件発生した。しかし近年での咬症件数は年に 100 件前後を推移し、死亡例も平成 11 年(1999 年)を最後に発生していない。

県内における毒蛇による咬症件数は平成 27 年(2015 年)の 67 件から、平成 28 年(2016 年)は 56 件に減少した。最近 10 年間（2007 年-2016 年）のハブ類咬症の傾向をみると、1 年間あたりのハブ咬症は 30~60 件前後、サキシマハブ咬症は 20~30 件前後とほぼ横ばい、ヒメハブ咬症も 10 件前後を推移している。外来種である、タイワンハブ咬症は 0~3 件と断続的に発生している。

本県では毒ヘビによる咬症被害の予防を図るため、1964 年から毎年被害の実態調査を行っている。今回は、平成 28 年に報告された毒ヘビ咬症被害状況について報告する。

II 調査方法

沖縄県内で発生したハブ類咬症患者情報は、治療を施した医療機関から所管の保健所を通じ毎月業務疾病対策課へ「ハブ咬症患者取扱報告」として報告される（はぶ抗毒素支給規程（昭和 47 年 9 月 14 日告示 105 号）第 10 条）。さらに、その医療機関の協力によって「ハブ咬症患者調査票」（図-11）に基づき、咬症に関する詳細を患者から聞き取り、保健所を通じて沖縄県衛生環境研究所に報告される。ハブ咬症患者調査票には記入漏れがある場合が多いため、直接咬症患者本人や病院に問い合わせ内容を補完した。しかし連絡の取れない患者もあり、充分とはいえない。

なお、被咬者が毒蛇の種類を確認していない場合には、八重山地域（石垣市、竹富町）では実害のある毒蛇はサキシマハブだけなので、サキシマハブとして集計した。一方沖縄諸島ではハブもしくはヒメハブの可能性が最も高く、また糸満ではサキシマハブ、名護市周辺や恩納村山田周辺ではタイワンハブの可能性も否定できない。このような蛇の種類が特定できない事例は、最も可能性の高いハブによる咬症として集計した。

III 結果および考察

1. ハブ咬症

平成 28 年のハブ咬症件数は昨年より 14 件増加の 37 件だった（表-1）。市町村別の内訳は、糸満市の 5 件が最も多く、次いで南城市の 4 件、うるま市・豊見城市・八重瀬町・那覇市の各 3 件、本部町・伊平屋村・久米島町の各 2 件、国頭村・大宜味村・今帰仁村・名護市・恩納村・読谷村・中城村・西原町・浦添市・南風原町の各 1 件である。なお、東村・伊江村・宜野座村・金武町・嘉手納町・北谷町・沖縄市・北中城村・宜野湾市・与那原町・渡嘉敷村・渡名喜村の 12 市町村は 0 件だった。

市町村合併で単純な比較はできないが、最近 10 年間の累計ではうるま市の他、糸満市、南城市及び八重瀬町を中心とする地域で咬症患者が多く発生している（表-4 の 1）。

2. ヒメハブ咬症

ヒメハブ咬症は名護市で 2 件、大宜味村・本部町・沖縄市で各 1 件の計 5 件であった（表-3 の 2）。

ヒメハブの毒はハブよりも弱いため、重症になることが少ない。また、これまでヒメハブ咬傷者の死亡記録はない。

3. サキシマハブ咬症

サキシマハブ咬症は、石垣市9件、糸満市・竹富町の各2件の計13件となり昨年に比べ23件減少した（表-3の3）。サキシマハブはハブより毒が弱く、治療の際に血清を使わない事が多い。平成28年に血清を使用した患者は2件であった。

4. タイワンハブ咬症

タイワンハブによる咬症は、今帰仁村1件の計1件であった（表-3の4）。

5. 人口1000人あたりの受傷率

ハブ類4種の咬症患者の合計を市町村別に人口千人あたりの受傷件数（受傷率）で見ると、伊平屋村が1.64と最も高い。次いで、大宜味村0.66、竹富町0.49の順になり、人口千人あたり受傷率0.50以上の市町村が2市町あった（表-5、図-5、図-6）。

ハブ類咬症者のいなかった市町村を除くと、受傷率が最も低いのは沖縄市の0.007で、これは人口約100万人に対しハブ類咬症者が約7名発生するという割合である。

6. 毒蛇の種類

沖縄県では、毒蛇による咬傷時、咬まれた人がその蛇を目撃するのは全体の半数に満たない。それは、ハブ類咬症のほとんどが見通しの悪い草むらや畑の中または夜間の暗がりの中で起こり、しかも咬んだ蛇の多くがすぐに逃げてしまうため確認できないためである。さらに、蛇を目撃した場合でも種類を判別できないことが多い。

蛇の種類を確認できない場合は、咬症後の痛みと傷の状態から毒蛇に咬まれたか否かを判断することになる。被害を及ぼす毒蛇が1種類のみ八重山地方ではサキシマハブと判断できる。一方、沖縄本島とその周辺離島で蛇に咬まれ、毒蛇と判断されかつ種類を確認できない場合には、ハブの可能性が最も高く、次いでヒメハブ、ガラスヒバエの可能性がある。

ガラスヒバエはナミヘビ科ヒバカリ属に分類され、毒蛇とされる^{1) 2)}。ガラスヒバエは1987年の咬症事例³⁾から同じナミヘビ科のヤマカガシ（ナミヘビ科ヤマカガシ属）の毒に類似するものと推測されるが、毒に関する詳細な文献資料が少なく明確な毒性は不明である。当研究所で確認できた咬症被害は1987年の事例のみである。

ネズミを主な餌とするハブは人間の生活圏と生息域が交錯するが一方で、カエルを主な餌とするガラスヒバエは水辺に生息し、人間との接触はかなり少ない。

攻撃的に人間を咬むこともあるアカマタは、生息域がハ

ブ類と共通である。咬まれて種の確認ができない場合でも、傷口がU字型の多数の歯型からなることと、患部に腫れ、出血、強い痛みの症状を伴わないことからアカマタなどの無毒蛇と確認できる。

一方、沖縄本島では自然分布しないサキシマハブ、タイワンハブ、タイコブラの3種の毒蛇が過去に捕獲されており、糸満ではサキシマハブ、名護市の一部とその周辺及び恩納村山田周辺ではタイワンハブが定着している⁴⁾。

ハブの近縁種であるサキシマハブおよびタイワンハブによる咬症は、既存のハブ抗毒素が有効であることが動物実験で確認されている⁵⁾。

タイコブラは1993年頃に捕獲された以外は20年以上目撃及び捕獲がないことから、定着していないと考えられる。

7. 月別咬症発生件数

ハブ咬症は例年秋に最も多く、次いで初夏に多い。また、冬期のサトウキビ収穫時にも若干増える傾向がある。

平成28年は、ハブ咬症は10月が8件で最も多く、次いで4月に6件、9月に5件、3月・5月・7月・11月・12月の各3件、6月に2件、8月に各1件の順であった。ヒメハブ咬症は10月に2件、2月・8月・12月に各1件発生した。サキシマハブ咬症は11月に4件と最も多く、次いで5月に3件発生した。タイワンハブ咬症は6月に1件発生した（表-6、図-7）。

8. 保健所別咬症件数

ハブ類4種合計の保健所別届出数は、南部保健所の21件が最も多く、次いで北部保健所・中部保健所の各12件、八重山保健所の11件であった（表-7）。

9. 場所別の咬症発生件数

平成28年のハブ咬症は、庭など屋敷内と畑での咬症件数がそれぞれ8件（22%）で全体の4割を占めた。次いで道路の7件（19%）の他、山林草地で6件（16%）、その他で5件（14%）、屋内で2件（5%）、不明で1件（3%）となった。ヒメハブ咬症は、屋敷内で2件（40%）、屋内・畑・道路で各1件（20%）であった。サキシマハブ咬症は、屋敷内が7件（54%）と最も多く、次いで畑が3件（23%）、山林草地が2件（15%）、道路が1件（8%）だった。タイワンハブ咬症は、畑で1件（100%）であった。ハブ類4種の合計では屋敷内が20件（36%）で最も多く、次いで畑で13件（23%）それ以外の合計が23件（41%）であった（表-8）。

10. 時刻別咬症件数

ハブ類が夜行性であるにもかかわらず、ハブ類咬症は日

中にも多くみられる。屋敷内の草刈りや農業従事者の労働時間など、日中に咬まれることが多い(表-9, 表-10, 図-8)。逆に道路での咬症は暗い夜間や早朝が多い。夜行性であるハブ類は、道路のようなオープンな場所に日中出现することは稀で、ほとんどは夜間に暗い路上を歩行中、ハブ類に気付かずに咬まれた事例である。

屋敷内での咬症は昼夜の差はみられない。これは、夜間に侵入してきたハブ類に侵入直後に咬まれる場合と、侵入後、物陰に隠れていたハブ類に日中もしくは夜間に咬まれるためと推測される。

11. 咬症部位

ハブでは、上肢指 16 件(43%)、下腿 9 件(24%)、足 5 件(14%)、手 3 件(8%)、前腕・足指各 2 件(各 5%)であった。ヒメハブは足指 2 件(40%)、上肢指・足・下腿各 1 件(各 20%)であった。サキシマハブは、上肢指 7 件(54%)、手・足指・足各 2 件(15%)であった。タイワンハブは、上肢指 1 件(100%)で手先に集中している(表-11, 図-9)。

沖縄県での毒蛇咬症は、手足の先端に近い部分を咬まれることが多い。特にサキシマハブとヒメハブは体長が短いために攻撃距離が短く、咬症部位は身体の末端に限られ、頭部や胴体などを咬まれることはほとんどない。

12. 年代別、性別発生件数

4 種類の合計で見ると、ハブ類咬症の多い年代は 50 代から 70 代である(図-10, 表-12)。

咬症患者の性比は、男性 42 名、女性 14 名で男性が多い。

IV まとめ

沖縄県における平成 28 年(2016 年)の毒蛇咬症患者はハブ咬症 37 件、ヒメハブ咬症 5 件、サキシマハブ咬症 13 件、タイワンハブ咬症 1 件の計 56 件であった。ハブ類 4 種合計の場所別咬症件数は、屋敷内が 20 件(36%)で最も多く、次いで畑で 13 件(23%)それ以外の合計が 23 件(41%)であった。

咬症件数は 2000 年以前と比較すると減少しているが、畑や屋敷全体など、人の生活圏における咬症事例が多いことから、日頃の対策が重要である。

<謝辞>

当該調査にあたっては咬症患者様及びその関係者の方々にはじまり、各医療機関の方々、ならびに各保健所職員には調査票の記入・報告等大変お世話になりました。厚くお礼を申し上げます。

V 参考文献

- 1) 高田榮一, 大谷 勉, 「原色爬虫類両性類検索図鑑」北陸館
- 2) Y. Tomihara, Y. Kawamura, K. Yonaha, M. Nozaki, M. Yamakawa, C. Yoshida. Neutralization of hemorrhagic snake venoms by sera of *Trimeresurus flavoviridis* (Habu), *Herpestes edwardsii* (mongoose) and *Dinodon semicarinatus* (Akamata). *Toxicon*, 1990;28(8):989-91
- 3) 上江洲由美子・寺田考紀・大城聡子・盛根信也「過去のガラスヒバア咬症について」平成 24 年度抗毒素研究報告書, 61
- 4) 寺田考紀, 「沖縄島に定着したタイワンハブ・サキシマハブ・タイワンスジオの生息状況と対策」, 爬虫両生類学会報, 2011 (2), 特集: 爬虫両生類における外来生物問題とその対策, 161-168
- 5) 野崎真敏・香村昂男・勝連盛輝, 「沖縄県へ移入されたヘビの毒素について」, 平成 6 年度抗毒素研究報告書, 8-15

表-1 最近10年間のハブ類咬症発生状況

年	ハブ			サキシマハブ			ヒメハブ	台湾ハブ	計	
	件数	死	受傷率	件数	死	受傷率(*)	件数	件数	件数	死
07	61	0	0.048	27	0	0.253	8	0	96	0
08	65	0	0.051	21	0	0.196	8	1	95	0
09	55	0	0.043	33	0	0.306	7	1	96	0
10	48	0	0.037	21	0	0.194	9	1	79	0
11	62	0	0.047	18	0	0.166	5	3	88	0
12	46	0	0.035	33	0	0.303	12	1	92	0
13	42	0	0.032	20	0	0.183	7	3	72	0
14	29	0	0.022	18	0	0.118	7	0	54	0
15	23	0	0.017	36	0	0.327	5	3	67	0
16	37	0	0.028	13	0	0.126	5	1	56	0
計	469	0	0.036	240	0	0.217	73	13	795	0

受傷率:人口1000人あたり受傷件数

*沖縄県におけるサキシマハブ咬症件数/石垣市、竹富町、糸満市人口合計×1000

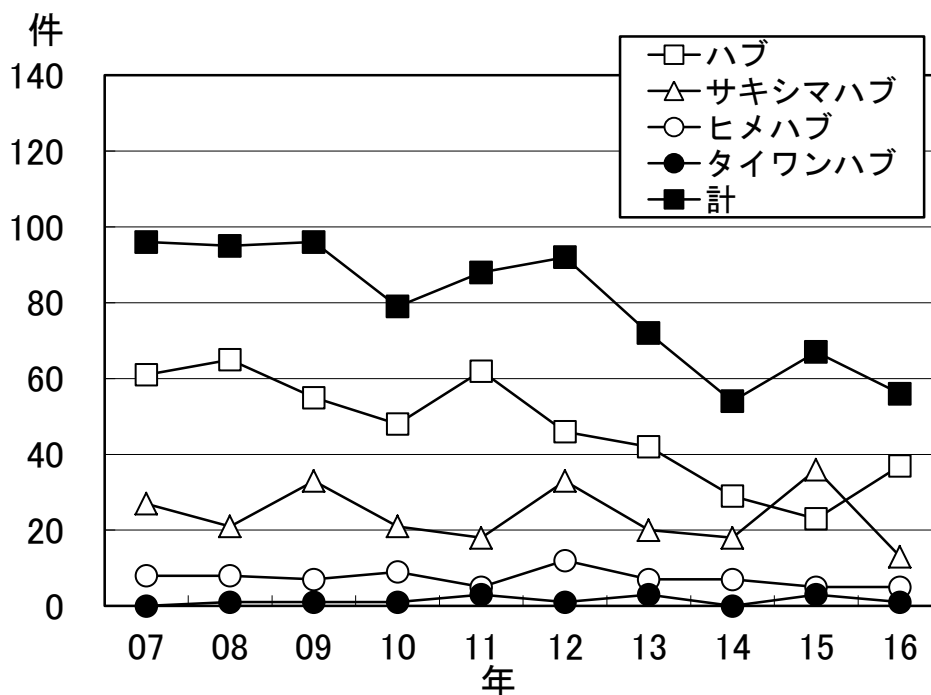


図-1 最近10年間のハブ類咬症発生状況

表-2 沖縄県の毒蛇咬症の推移

種年	ハブ	死亡 件数	サキシマ ハブ	死亡 件数	ヒメ ハブ	タイワン ハブ	ハブ類 咬症合計	ウミヘビ 類	コブラ	ガラス ヒバア
64	424	4					424			
65	350	7	85				435			
66	357	2	121		1		479			
67	389	5	160				549			
68	351	6	167		1		519			
69	323	4	150				473			
70	321	1	137				458			
71	326	2	111				437			
72	239	1	71				310			
73	374	6	36				410			
74	306		31				337			
75	299	3	60				359			
76	268		45				313			
77	292	2	37				329			
78	283	4	48				331		1	1
79	254		71	1			325			
80	226	1	56		1		283	1		
81	210		57				267			
82	183		80		7	1	271			
83	156		37		4		197			
84	188		47		3		238			
85	184		38		21	1	244			
86	180		31		14		225			
87	208		33		21		262			
88	174		39		17		230			
89	179	2	33		18		230	1		
90	157	1	42		15		214	2		
91	170		39		21		230			
92	86	1	37		28		151		1	
93	103		40		18		161			
94	100		44		15		159			
95	124		42		15		181			
96	104		25		8		137			
97	109		23		14		146			
98	93		28		18		139			
99	81	1	27		7		115			
00	82		36		17		135			
01	61		30		6		97			
02	61		32		9		102			
03	63		23		7		93			
04	43		22		3		68			
05	67		26		13	2	108			
06	62		30		10	2	104	2		
07	61		27		8		96			
08	65		21		8	1	95	1		
09	55		33		7	1	96			
10	48		21		9	1	79			
11	62		18		5	3	88			
12	46		33		12	1	92			
13	42		20		7	3	72			
14	29		18		7		54			
15	23		36		5	3	67			
16	37		13		5	1	56			
計	9078	53	2567	1	405	20	12070	7	2	1

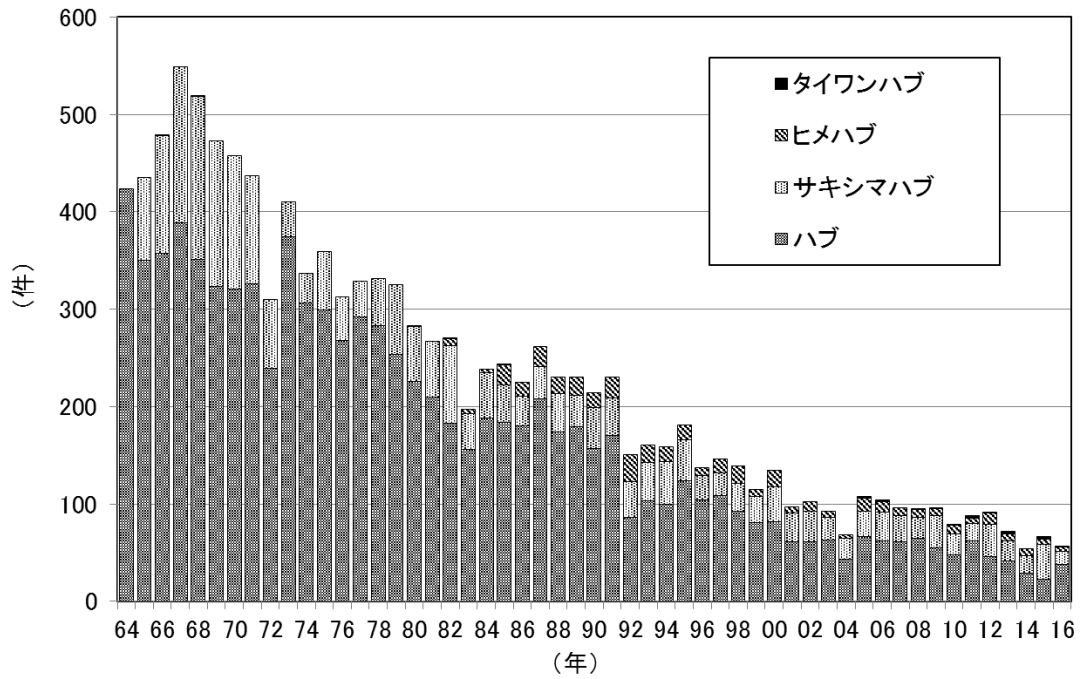


図-2 沖縄県のハブ類咬症の推移

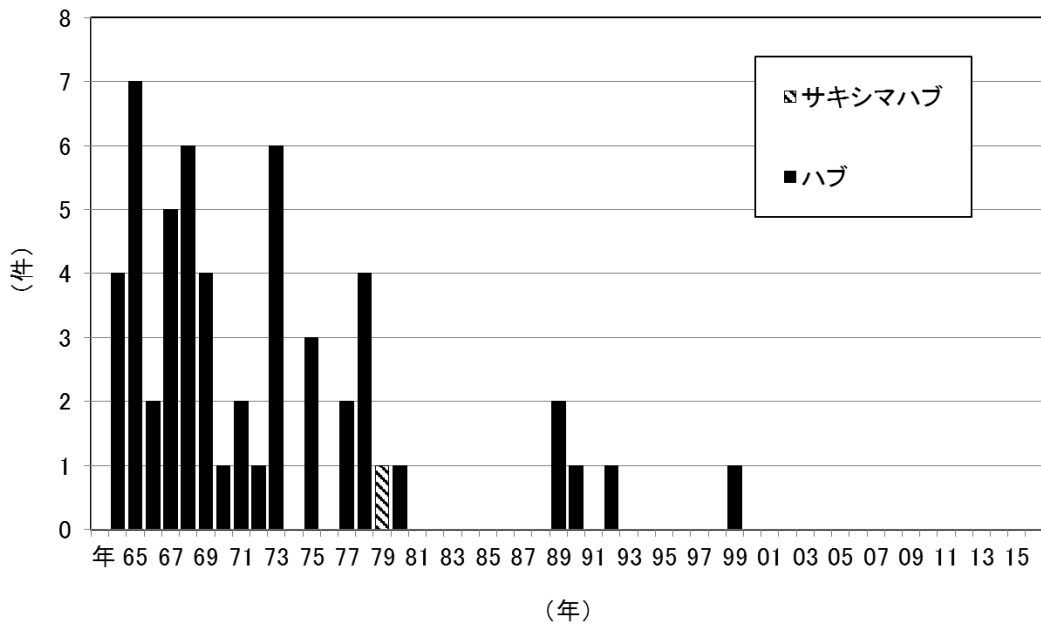


図-3 ハブ類咬症死亡件数の経年

表-3 2016年受傷市町村別月別毒ヘビ咬症件数

1. ハブ咬症

月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	計
国頭村										1			1
大宜味村			1										1
東村													0
今帰仁村				1									1
本部町				1					1				2
名護市										1			1
伊江村													0
伊平屋村						2							2
宜野座村													0
恩納村							1						1
金武町													0
うるま市				1					1		1		3
読谷村					1								1
嘉手納町													0
北谷町										1			1
沖縄市													0
北中城村													0
宜野湾市													0
中城村							1						1
西原町											1		1
浦添市											1		1
豊見城市							1	1				1	3
糸満市			2					1			1	1	5
八重瀬町				1	1					1			3
南城市					1					3			4
南風原町								1					1
与那原町													0
渡嘉敷村													0
久米島町				1							1		2
渡名喜村													0
那覇市				1					1			1	3
不明													0
計	0	0	3	6	3	2	3	1	5	8	3	3	37

2. ヒメハブ咬症

月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	計
大宜味村		1											1
本部町										1			1
名護市										1		1	2
沖縄市								1					1
計	0	1	0	0	0	0	0	1	0	2	0	1	5

3. サキシマハブ咬症

月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	計
糸満市											2		2
石垣市			1	1	2		1	2	1		1		9
竹富町					1						1		2
計	0	0	1	1	3	0	1	2	1	0	4	0	13

4. タイワンハブ咬症

月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	計
今帰仁村							1						1
計	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1

表-4 最近10年間の市町村別毒ヘビ咬症件数

1.ハブ咬症

年	07	08	09	10	11	12	13	14	15	16	計
国頭村	2	1	5	4	3	6	4			1	26
大宜味村		3	1		1				1	1	7
東村	1			1	1	1	1				5
今帰仁村	1	1	2		1	1	2	2	1	1	12
本部町		2		1	2					2	7
名護市	2	2	1	3	4	4	2	4	4	1	27
伊江村		2		2	1	2					7
伊平屋村		2			1	2	1			2	8
宜野座村	1	2	1			1	2		1		8
恩納村	1			1			1		1	1	5
金武町	1	2	2				1				6
うるま市	7	11	4	8	9	3	7	1	1	3	54
読谷村	3		2	2	3		3	2	1	1	17
嘉手納町	1										1
北谷町	2	1		1	1						5
沖縄市	3	1	6			2		2			14
北中城村		1		1							2
宜野湾市	2		1	1	3	1	2	1			11
中城村	1	4			5		1			1	12
西原町	2	3	2		1	2			1	1	12
浦添市	1			1						1	3
豊見城市	2				2			1	2	3	10
糸満市	2	7	8	9	7	7	3	2	1	5	51
八重瀬町 東風平町★ 具志頭村★	8	1	7	2	3	3	3	3		3	33
南城市 玉城村☆ 知念村☆ 佐敷町☆ 大里村☆	8	4	8	4	2	1	4	2	2	4	39
南風原町	2	2	1	1	4	1			1	1	13
与那原町											0
渡嘉敷村					1						1
久米島町	3	7	2	4	5	5	3	4	4	2	39
渡名喜村										0	0
那覇市	5	4	2	1	2	3		2	1	3	23
不明		2		1	1		2	3	1	0	10
計	61	65	55	48	62	46	42	29	23	37	468

2.ヒメハブ咬症

年	07	08	09	10	11	12	13	14	15	16	計
沖縄県	8	8	7	9	5	12	7	7	5	5	73

3.サキシマハブ咬症

年	07	08	09	10	11	12	13	14	15	16	計
石垣市	19	16	21	17	11	22	13	6	26	9	160
竹富町	4	5	7	4	6	10	4	7	9	2	58
沖縄本島	4		5	0	1	1	3		1	2	17
不明								5			5
計	27	21	33	21	18	33	20	18	36	13	240

4.タイワンハブ咬症

年	07	08	09	10	11	12	13	14	15	16	計
本部町							1				1
名護市			1	1	2	1	1		1		7
今帰仁村		1			1				2	1	5
(※)宜野座村							1				1
計	0	1	1	1	3	1	3	0	3	1	14

(※)タイワンハブ疑い例

5.ウミヘビ類咬症

年	07	08	09	10	11	12	13	14	15	16	計
不明		1									1

★東風平町・具志頭村は2006年1月に合併して八重瀬町となったため、2006年以降のデータはまとめている
 ☆玉城村・知念村・佐敷町・大里村は2006年1月に合併して南城市となったため、2006年以降のデータはまとめている

表-5 2016年 市町村別ハブ類咬症件数と人口千人当り受傷率

受傷場所 市町村	ハブ	ヒメ ハブ	サキシマ ハブ	タイワン ハブ	計
石垣市			9		9
糸満市	5		2		7
南城市	4				4
那覇市	3				3
本部町	2	1			3
名護市	1	2			3
うるま市	3				3
豊見城市	3				3
八重瀬町	3				3
大宜味村	1	1			2
今帰仁村	1			1	2
伊平屋村	2				2
久米島町	2				2
竹富町			2		2
国頭村	1				1
恩納村	1				1
読谷村	1				1
沖縄市		1			1
中城村	1				1
西原町	1				1
浦添市	1				1
南風原町	1				1
東村					0
伊江村					0
宜野座村					0
金武町					0
嘉手納町					0
北谷町					0
北中城村					0
宜野湾市					0
与那原町					0
渡嘉敷村					0
渡名喜村					0

受傷場所 市町村	受傷 件数	受傷率 (*)	人口(※) 2016年12月1日現在
伊平屋村	2	1.6407	1219
大宜味村	2	0.6623	3020
竹富町	2	0.4984	4013
久米島町	2	0.2622	7629
本部町	3	0.2237	13408
今帰仁村	2	0.2096	9542
国頭村	1	0.2058	4858
石垣市	9	0.1888	47665
糸満市	7	0.1182	59226
八重瀬町	3	0.1014	29577
南城市	4	0.0940	42536
恩納村	1	0.0935	10700
中城村	1	0.0498	20080
豊見城市	3	0.0486	61716
名護市	3	0.0483	62113
西原町	1	0.0290	34459
南風原町	1	0.0262	38108
読谷村	1	0.0252	39730
うるま市	3	0.0251	119542
那覇市	3	0.0094	319990
浦添市	1	0.0087	114509
沖縄市	1	0.0071	140634
東村	0	0.0000	1682
伊江村	0	0.0000	4173
宜野座村	0	0.0000	5609
金武町	0	0.0000	11240
嘉手納町	0	0.0000	13666
北谷町	0	0.0000	28500
北中城村	0	0.0000	16037
宜野湾市	0	0.0000	97121
与那原町	0	0.0000	18776
渡嘉敷村	0	0.0000	740
渡名喜村	0	0.0000	419

※市町村別人口は沖縄県企画部統計課公表の「平成28年12月1日現在市町村別推計人口データ」による

* 受傷率: 人口1000人あたり受傷件数口

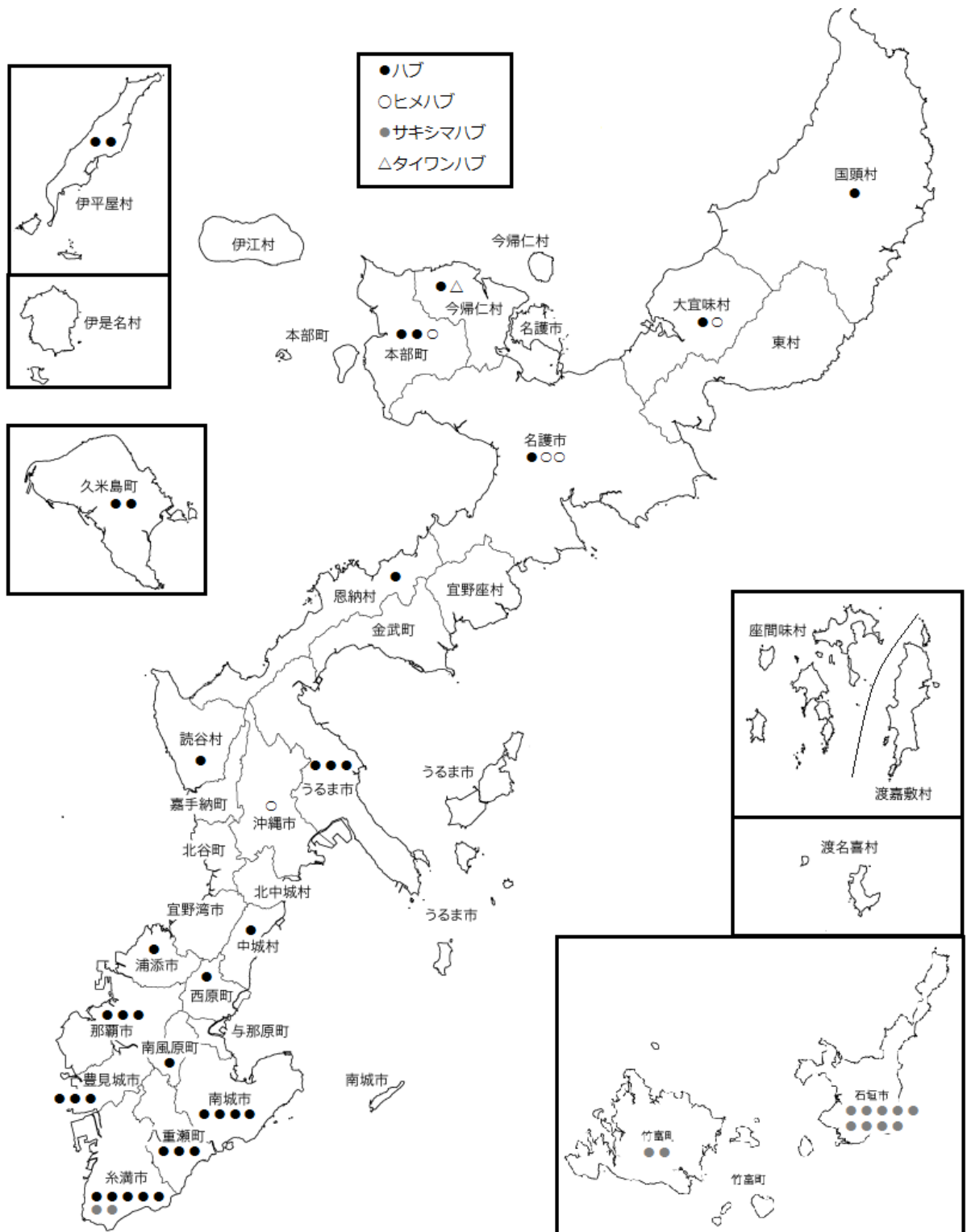


図-4 2016年市町村別ハブ類咬症件数

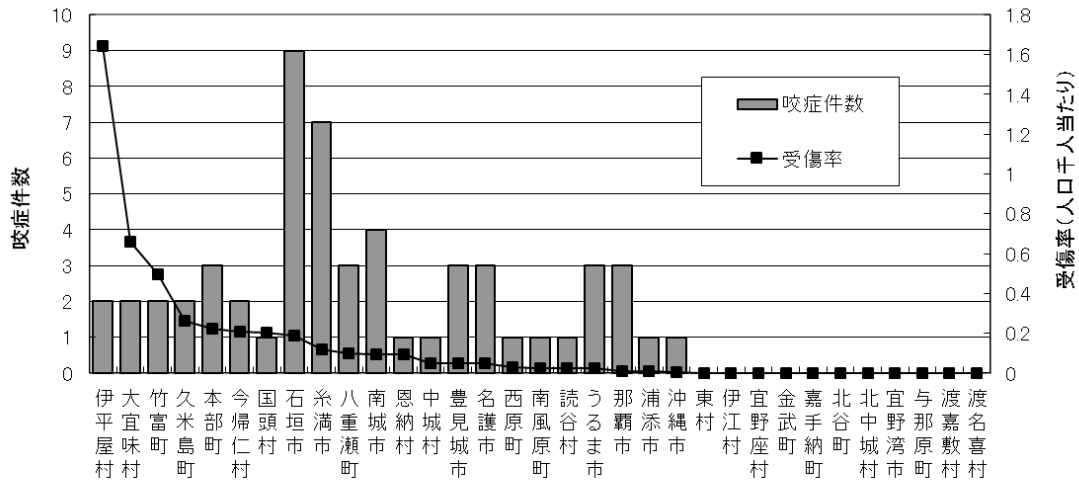


図-6 2016年市町村別ハブ類咬症件数と人口千人あたり受傷率

表-6 2016年月別ハブ類咬症件数

月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	計
ハブ			3	6	3	2	3	1	5	8	3	3	37
ヒメハブ		1						1		2		1	5
サキシマハブ			1	1	3		1	2	1		4		13
タイワンハブ						1							1
計	0	1	4	7	6	3	4	4	6	10	7	4	56

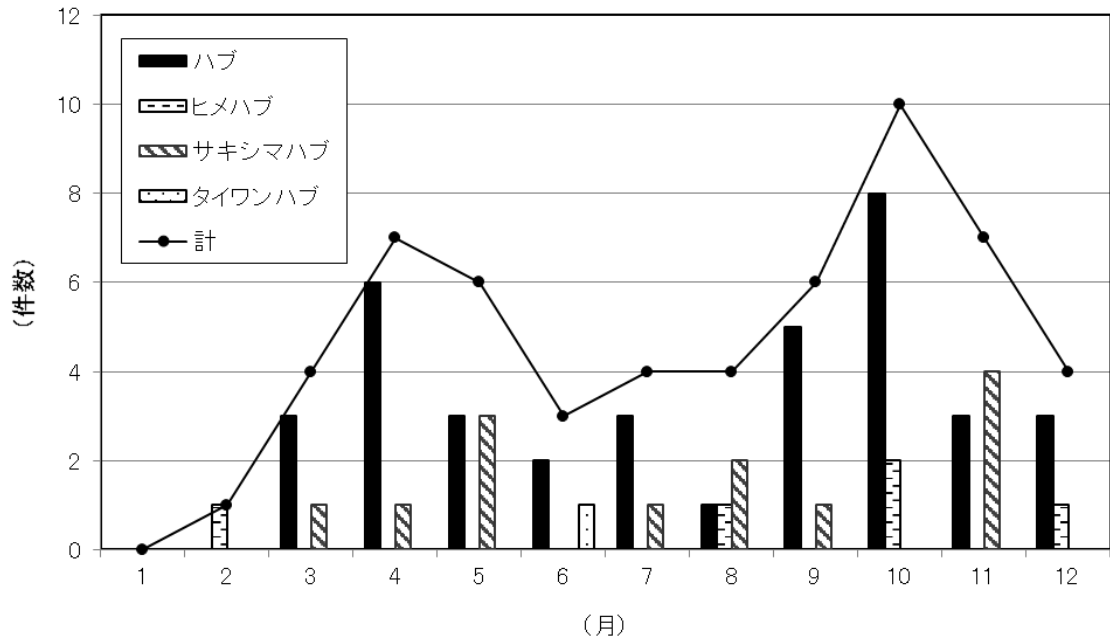


図-7 2016年月別ハブ類咬症件数

表-7 2016年 届出保健所別月別ハブ類咬症件数

保健所	種名\月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	計
北部	ハブ			1	2		1			1	2			7
	ヒメハブ		1								2		1	4
	タイワンハブ						1							1
	計	0	1	1	2	0	2	0	0	1	4	0	1	12
中部	ハブ				1	2	1	2		1	3	1		11
	ヒメハブ								1					1
	計	0	0	0	1	2	1	2	1	1	3	1	0	12
南部	ハブ			2	3	1		1	1	3	3	2	3	19
	サキシマハブ											2		2
	計	0	0	2	3	1	0	1	1	3	3	4	3	21
八重山	サキシマハブ			1	1	3		1	2	1		2		11
	計	0	0	1	1	3	0	1	2	1	0	2	0	11

表-8 2016年 場所別咬症件数

場所	ハブ	ヒメハブ	サキシマハブ	タイワンハブ	計
屋内	2	1	0	0	3
屋敷内	8	2	7	0	17
畑	8	1	3	1	13
道路	7	1	1	0	9
山林草地	6	0	2	0	8
その他屋敷外	5	0	0	0	5
不明	1	0	0	0	1
計	37	5	13	1	56

表-9 2016年 被害者の行動別咬症件数

咬症時の行動		ハブ	ヒメハブ	サキシマハブ	タイワンハブ	計
屋内	就寝中	0	0	0	0	0
	用便中	0	1	0	0	1
	室内の他の動作	1	0	2	0	3
屋外	通行中	12	2	3	0	17
	キビ刈り中	1	0	1	0	2
	農作業中	5	0	2	1	8
	草刈り中	6	1	1	0	8
	ハブ扱い中	1	0	0	0	1
	屋外の他の動作	10	1	3	0	14
	不明	1	0	1	0	2
計	37	5	13	1	56	

表-10 2016年 場所及び時刻別ハブ類咬症件数(四種計)

場所\時間	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	不明	計
屋内						2				1																3
屋敷	1			1		2				1	3	2					1			2	1		1	1	1	17
畑								2	2	1		3				2	1				1					13
道路			1						1		1										2	2	1		1	9
山林・草地												1		2		2					2	1				8
その他		1						1			1			1												5
不明														1												1
計	1	1	1	1	0	4	0	3	3	3	5	6	0	4	0	4	2	0	0	7	4	1	1	2	3	56

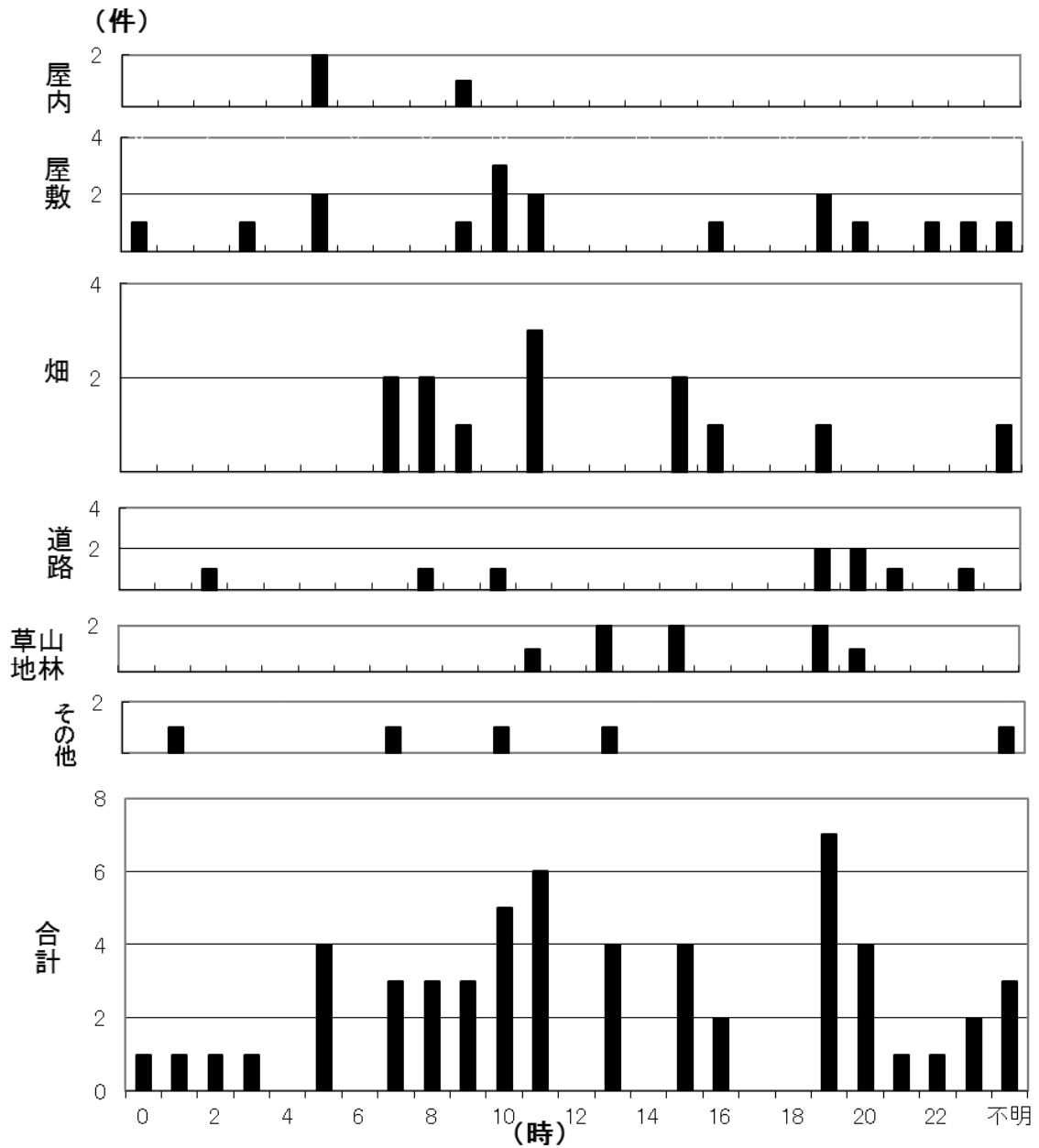


図-8 2016年時刻別場所別ハブ類咬症件数(4種計)

表-11 2016年 部位別ハブ類咬症件数

部位\種	ハブ	ヒメ ハブ	サキシマ ハブ	タイワン ハブ	計	
上肢	指	16	1	7	1	25
	手	3		2		5
	前腕	2				2
	上腕					0
下肢	指	2	2	2		6
	足	5	1	2		8
	下腿	9	1			10
	大腿					0
頭 部					0	
軀 幹					0	
計	37	5	13	1	56	

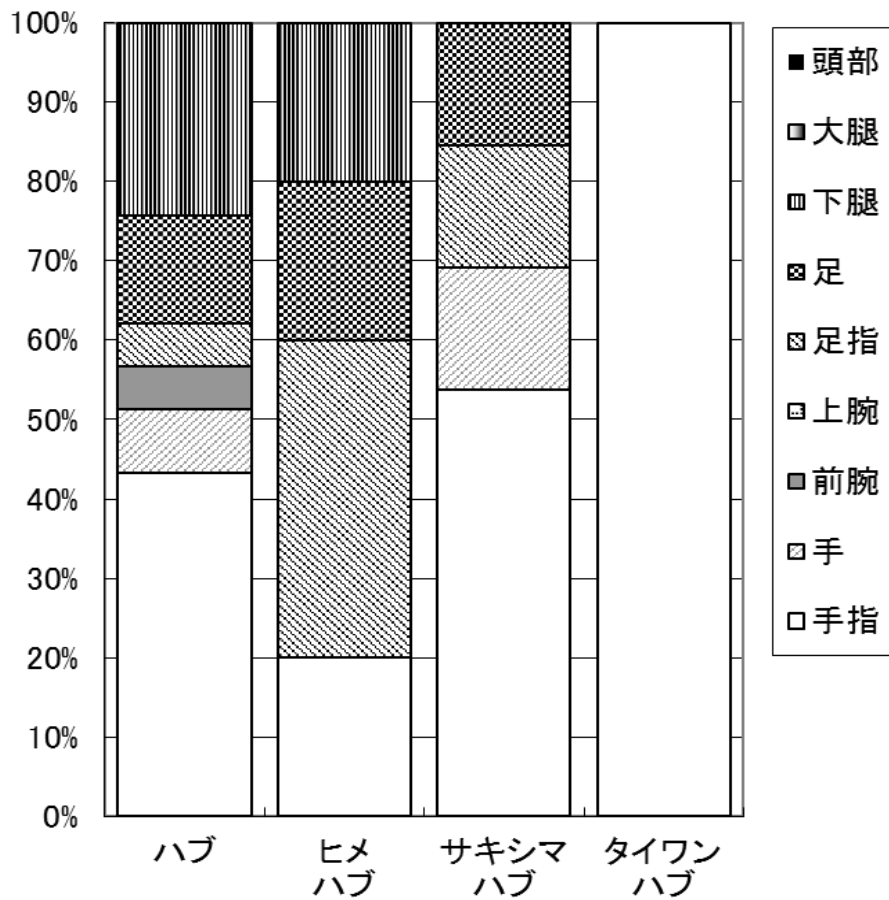


図-9 2016年部位別ハブ類咬症発生率

表-12 2016年 年代別ハブ類咬症件数

種類	年代	0	10	20	30	40	50	60	70	80	90	不明	計
ハブ	男	1	2	1	1	1	7	8	4	2	0	0	27
	女	0	1	0	1	1	2	2	1	2	0	0	10
	計	1	3	1	2	2	9	10	5	4	0	0	37
ヒメハブ	男	0	0	0	0	1	0	2	1	0	0	0	4
	女	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1
	計	0	0	0	0	1	0	3	1	0	0	0	5
サキシマ ハブ	男	0	0	0	1	2	1	5	1	0	0	0	10
	女	0	0	2	0	0	0	0	1	0	0	0	3
	計	0	0	2	1	2	1	5	2	0	0	0	13
台湾 ハブ	男	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1
	女	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	計	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1
4種計	男	1	2	1	2	4	8	15	7	2	0	0	42
	女	0	1	2	1	1	2	3	2	2	0	0	14
	計	1	3	3	3	5	10	18	9	4	0	0	56

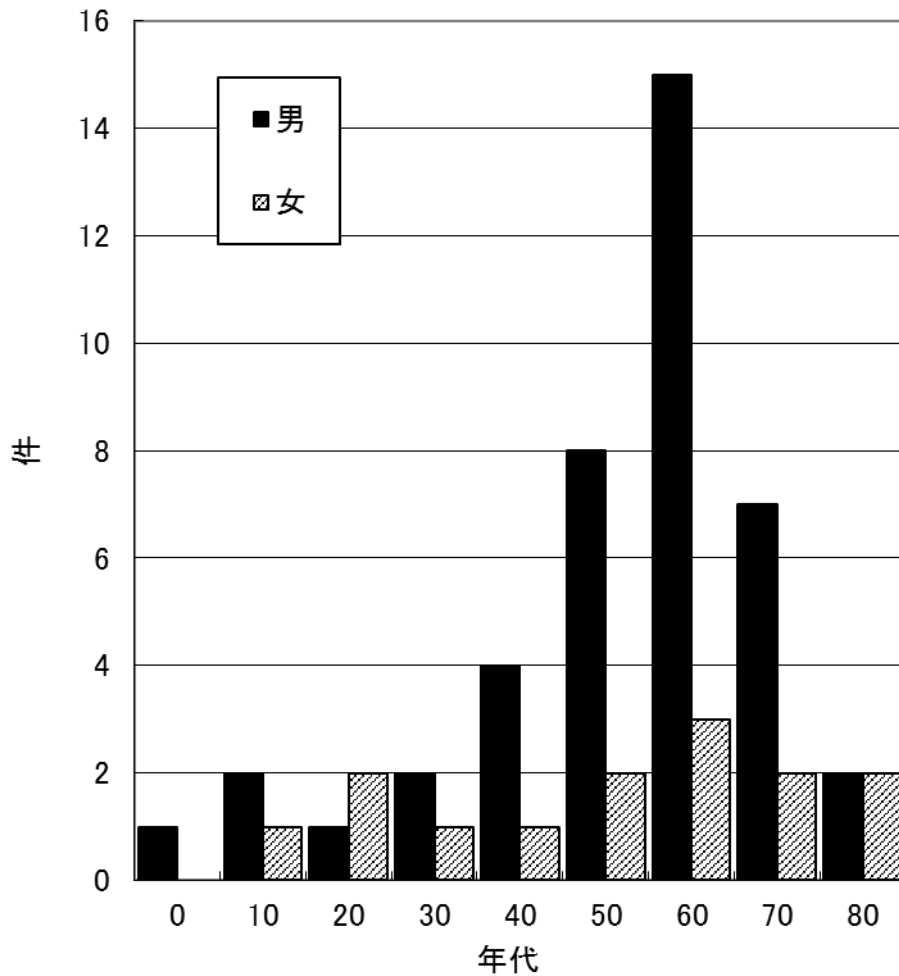


図-10 2016年年代別男女別咬症件数

ハブ咬症患者調査票

連絡先： 沖縄県衛生環境研究所衛生生物班

電話： 098-987-8223

FAX： 098-987-8210

No. _____	
記入者名 _____	
I 病院名 _____	転院名 _____
II 患者名 _____ 年齢 才 1. 男 2. 女 生年月日(明・大・昭) _____ 年 月 日生	
住所 _____ 市・町・村 _____ 番地 _____ 自宅電話番号 () _____	
職業 _____ 職場電話番号 () _____	
III 受傷日 _____ 年 月 日 午前・午後 _____ 時 分	
IV 受傷場所 _____ 市・町・村 _____ 番地 0. 不明 屋内 1. 居間・寝室・その他() 2. 台所 3. 便所・風呂 屋敷内 4. 庭 4. その他(畜舎・便所・車庫・鶏小屋) 田畑 5. キビ畑 6. パイン畑 13. 水田 7. その他の畑(イモ・野菜・不明) 道路 8. 農道 9. その他の道路(山道・部落内道路・不明) 原野 10. 原野・草地 11. 山・森林 12. その他(川・沼・池・海岸・墓地)	V 受傷動機 0. 不明 1. 就寝中 2. 室内におけるその他の活動 3. 用便中 4. 通行中 5. キビ刈中 6. 農作業中 7. 草刈中 8. ハブ取扱中・採取中 9. その他() VI 蛇の種類 ハブ・ヒメハブ・サキシマハブ アカマタ・わからない
VII 受傷部位 0. 不明 21. 頭部 25. 軀幹 上 左 1. 左第 指 3. 左手 5. 左前腕 7. 左上腕 肢 右 2. 右第 指 4. 右手 6. 右前腕 8. 右上腕 下 左 11. 左足第 指 13. 左足 15. 左下腿 17. 左大腿 肢 右 12. 右足第 指 14. 右足 16. 右下腿 18. 右大腿	
VIII 応急処置 処置方法 A 1. 緊縛せず 2. 緊縛した 0. 不明 B 1. 吸引せず 2. 吸引した 0. 不明 C 1. 切開せず 2. 切開した 0. 不明	X 局所症状 1. 疼痛(+, -), 腫張(+, -), 出血(+, -) 2. 牙痕数() 3. 今回の受傷状況(被咬回数 1回 2回 3回) 4. これまでに何回かまれたことがあるか(過去 回)
IX 受傷より血清治療までの時間 0. 不明 1. 30分以内 2. 1時間以内 3. 2時間以内 4. 4時間以内 5. 4時間以上 6. 血清治療せず	XI 血清について 血清量 _____ ml 注射法 0. 不明 1. 静脈注射 2. 局所注射(受傷部) 3. その他(受傷部以外の筋注など) 4. 注射せず
XII 治療期間 治療日数 0. 不明 1. 2~3日 2. 1週間 3. 2週間 4. 1ヶ月 5. 2~3ヶ月 6. 3ヶ月以上 入院日数 _____ 日	
XIII 予後 0. 不明 1. 完全治療・リハビリをした 2. 完全治療・リハビリをしない 5. 瘢痕形成 7. 機能障害(含切断)リハビリをした 8. 機能障害(含切断)リハビリをしない 10. 死亡(年 月 日 時)	

図-11 ハブ咬症患者調査票